

都道府県番号	学校名 北海道鹿追高等学校 外8校(園)	27~29
--------	----------------------	-------

平成29年度研究開発自己評価書

I 研究開発の内容

1 教育課程

(1) 編成した教育課程の特徴

カリキュラムの区切りを「1-4-4-4」とし、町全体で「身に付けさせたい資質と能力」を明確にした。「かかわる力」「主体的」「考動力」をキーワード行った。ESDの視点を取り入れ、5歳児から高校3年生までの発達段階表を作成し、指導計画と評価基準の見直し再編成を行った。

認定こども園	小学生(6)	中学校(3)	高校(3)
5歳児(1)	小学1~4年生(4)	小学5~中学2年生(4)	中学3年生~高校3年(4)
英語を使った遊び	体験を重視した学び	交流して取り組む学習	学んだことを生かす学習

鹿追町が考える【身に付けさせたい資質と能力】発達段階表

キーワード	発達段階	5歳児	小1~小4	小5~中2	中3~高3
	ESDの視点	国立教育政策研究所			
かかわる力 主体的 考動力	批判	・自分の考えを持つことができる	・情報を基に自分の考えや意見を持つことができる	・情報をもとに判断・考察し、自分の意見を持つことができる	・合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、物事を思慮深く建設的、協働的、代替的に思考・判断する力
	見通す	・今やるのがわかる	・課題解決方法を見通すことができる	・情報を共有して、実態に応じながら課題解決方法を見通すことができる	・過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながらも、物事を計画する力
	多面性	・様々な方法を考えることができる	・人・もの・自然について理解し、様々な立場や視点で考えることができる	・人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわりを理解して、様々な立場や視点で考えることができる	・人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考える力
	コミュニケーション	・自分の気持ちを伝えることができる	・積極的に自分の気持ちを伝え、他者の気持ちも考えることができる	・自分の気持ちや考えを伝えと共に他者の気持ちも考えながら、積極的にコミュニケーションを行うことができる	・自分の気持ちや考えを伝えと共に他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力
	協力	・一緒に活動することを楽しむことができる	・協力して課題を解決することができる	・協力して課題を解決し発展させることができる	・他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同して物事を進めようとする態度
	つながり	・様々な事柄に関心を持つことができる	・人・もの・ことに直接触れ、良さを見つけることができる	・人・もの・こととのつながりを大切にしようとするすることができる	・人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度
	参加	・友だちと遊ぶことができる ・楽しさを見つけることができる	・ものごとに主体的に参加することができる	・自分にできること、役割を理解して、主体的にふりかえりながらもものごとに参加することができる	・集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解すると共に、物事に主体的に参加しようとする態度

対象	身の回り	学校	鹿追・十勝・北海道	日本	世界
考え	主観	→	→	→	→
			地球		客観

① 新設教科「地球コミュニケーション」

「1-4-4-4」の区切りで13年間の系統性あるカリキュラムを編成した。小学校ではフォニックスや英語にかかわるイベントを、中学校ではイベントに加え基礎英語力の向上を図る単元なども取り入れている。また、認定こども園5歳児と小学校第1・2学年児童の交流授業、小学校第5学年児童と中学校第1学年生徒の交流授業、小学校第6学年児童と中学校第2学年生徒の交流授業、中学校3学年生徒と高等学校第1～3学年性との交流授業を1年間を3期にわけて計画・実施している。

【右：交流授業の計画】

小6年生			中1年生		
時間	単元名	指導内容	時間	単元名	指導内容
1	自己紹介	自己紹介	1	自己紹介	My hobby is～
2		★小6中2交流①	2		自己紹介スピーチ
3		★小6中2交流②	3		Family Tree
4		★小6中2交流③	4		年齢
5	友達紹介	He/She wants to～	5	家族紹介	職業
6		This is～ He/She is～	6		家族紹介 スピーチ作成
7		発表(準備)	7		家族紹介 スピーチ発表 (20分×1日)
8		発表(準備)	8		曜日と数詞
9	発表(スピーチ)		9	学校での生活	★小5中1交流①
10	I want to～?	①Lesson 6 What do you want?	10		★小5中1交流②
11	Where do you want to go?	②Lesson 5 Let's go to Italy.	11		★小5中1交流③
12	外国調べ	②Lesson 5 Let's go to Italy.	12		日誌
13	ツアーガイド になろう	発表(準備)	13	自分の日誌の英文	
14	★小6中2交流④	③Lesson 5 Let's go to Italy.	14	私の1日	★小5中1交流④
15	★小6中2交流⑤	③Lesson 5 Let's go to Italy.	15		★小5中1交流⑤
16	★小6中2交流⑥	③Lesson 5 Let's go to Italy.	16		★小5中1交流⑥

【下：13年間のカリキュラム】

地球コミュニケーション 年間カリキュラム [指導内容]																																				
こども園	小1年生			小2年生			小3年生			小4年生			小5年生			小6年生			中1年生			中2年生			中3年生			高1年生			高2年生			高3年生		
1	英語	英語	英語	英語	英語																															

② 新設教科「新地球学」

新地球学においては、小学校第1学年から高等学校第3学年までの12年間を見通した学習内容を計画した。また、興味・関心を高める体験活動についても12年間で重複しないよう編成している。指導計画には、ESDの視点での身に付けさせたい力や評価の観点、他教科との関連も明記している。

＜中学校第3学年 新地球学 年間指導計画の一部＞

	ESDの視点	単元(小単元)	実施内容	評価				他教科との関連	実施時期	行事関連 (幼小中高連携)	
				関	思	技	知				
1	見通す 多面性	オリエンテーション	オリエンテーション/地震・防災について学ぼう	○			◎	理科・技術家庭	4月15日		
2	批判 協力 参加	国際理解・地域文化 (地域の発信)	地域の情報を発信しよう①(リハーサル)		○	◎		英語 地コミ	4月16日	修学旅行 中連携	
3	見通す 協力 参加		地域の情報を発信しよう②(リハーサル)		○	◎			4月17日		
4	コミュニケーション		様々な人に地域の情報を発信しよう①(PR当日)	◎		○			4月21日		
5	協力		様々な人に地域の情報を発信しよう②(PR当日)	◎		○			4月21日		
6	多面性		得た情報や学んだことを相手に伝えよう①(報告会)			◎				5月11日	中連携 保護者参観
7	つながり		得た情報や学んだことを相手に伝えよう②(報告会)			◎				5月11日	

(2) 教育課程の内容は適切であったか

「地球コミュニケーション」の教育課程に対応したCAN-DO リストを作成し、「書く・聞く・読む・話す」の4観点から学習状況を評価した。「新地球学」においては、ESDの視点に立った評価規準を作成し、児童生徒の学習状況を随時評価した。児童生徒の評価を基に、各部会において学年の区切りである「1-4-4-4」は適切かどうか、「継続性はああるかどうか」、「かかわる力はついているか」、「考動力は育っているか」という視点から教育課程の内容について検討を重ねた。

さらに右表のような地球コミュニケーションと他教科、新地球学との関連を整理した表を学年ごとに作成し教育課程の改善・充実を図る工夫をした。

【下表：地球コミュニケーションCAN-DO リスト】

鹿沼町幼小中高一貫教育 開発教科「地球コミュニケーション」CAN-DO リスト						
英語を通じて、場面や状況、背景、相手の感情や反応などを踏まえて、話し方や書き手の伝えたいことを的確に理解するとともに、自分が伝えたいことを適切に伝えることができる。						
※ 観点別学習状況の評価における「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語表現の能力」及び「言語や文化についての知識・理解」の4つの観点のうち、「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標は「外国語表現の能力」および「外国語理解の能力」について設定する。						
	外国語表現の能力			外国語理解の能力		
	Speaking	Writing	評価方法	Listening	Reading	評価方法
高校第3学年	529. トピック(外国人観光客を呼ぶにはどうしたら良いか)について考えを説明することができる。 530. 地球環境の保全について自分の考えを説明することができる。 531. 自国と外国の食文化の違いについて自分の考えを説明することができる。	W28. トピック(外国人観光客を呼ぶにはどうしたら良いか)について、自分の考えをまとめることができる。 W29. 地球環境の保全について自分の考えをまとめることができる。 W30. 自国と外国の食文化の違いについて自分の考えをまとめることができる。		L30. トピック(外国人観光客を呼ぶにはどうしたら良いか)について、グループの考えを聞き取ることができる。 L31. 外国と自国の食文化や農作物について興味し内容を取りまることができる。 L32. 地球環境の保全に関する友だちの考えを聞き取ることができる。	R20. 自国と外国の地理情報の違いに関する文章について読み取ることができる。 R21. 外国と自国の食文化や農作物について書かれた文章を読み、内容を読み取ることができる。 R22. 地球環境の保全に関する友だちの考えを読み取ることができる。	
高校第2学年	528. 指定した単語(Original/Reading)を用いて、自国のことを説明することができる。 527. 習得した単語を用いて、身近な物や下級生に紹介することができる。 528. 自分の考えを整理のシステムについて発表することができる。	W25. 自国の歴史や外国の歴史についてまとめることができる。 W26. 継続してストーリーを考え、描筆することができる。 W27. 自国と外国の食文化についてまとめることができる。		L17. 外国と自国の歴史を比較したALTや友人の発表について聞き取ることができる。 L18. 継続してまとめた文章を読み取ることができる。 L19. さまざまなシステムについてまとめた発表を読み取ることができる。	R17. 外国の歴史に関する文章について読み取ることができる。 R18. 外国の食文化についてまとめた文章を読み取ることができる。 R19. 継続してまとめた文章を読み取ることができる。	
高校第1学年	523. 学校生活や自国のこと、住んでいる地域について、話すことができる。 524. 共通した話題に関して、発表することができる。 525. 前後や資料を提示しながら物の人伝えにすることができる。	W22. 簡単な単語や文をまとめることができる。 W23. 継続してまとめた文章を書き取ることができる。 W24. 外国と自国の食文化の違いについて、まとめることができる。		L14. 日常生活の身近な話題について、情報や考えを理解することができる。 L15. Cultural Differencesのプレゼンテーションに対して、聞き取ることができる。 L16. ALTや友人のスピーチについて聞き理解することができる。	R14. 外国の生活や文化に関する文章について読み取ることができる。 R15. Cultural Differencesに関する文章を読み取ることができる。 R16. 友人が書いた将来の夢に関する文章を読み取ることができる。	
初歩的な英語で話したり、書いたりして自分の考えなどを表現するとともに、初歩的な英語を聞いたり読んだりして話し方や書き手の意向などを理解することができる。						
	外国語表現の能力			外国語理解の能力		
	Speaking	Writing	評価方法	Listening	Reading	評価方法
中学第3学年	519. 自分、他人の特徴などについて英語を自分の言葉で表現することができる。 520. 物事に対する考えや意見を、その理由を添えながら話することができる。 521. 相手の発言や質問に関する質問に簡単な英語で答えることができる。 522. あるテーマについて10語以上まとめたスピーチ文を、原稿を頼りに発表することができる。	W19. 自分、他人の特徴などを英文で書くことができる。 W20. 自分の考えや意見を、理由を添えながら書くことができる。 W21. マットシンプを基に、あるテーマについてのスピーチ文を10語以上で辞書を活用しながら書くことができる。		L11. 人物の特徴を聞いて、その人についてお話を理解することができる。 L12. 事柄に対する考えや意見、その理由などを聞き取ることができる。 L13. 自分に関する質問の答えをお互いに理解することができる。	R12. あるテーマについて書かれた英文を読み、お話を理解することができる。 R13. 物事や人物について語られた英文を読み、その内容や感情、考えや意見をまとめることができる。	
中学第2学年	516. 日本の文化や伝統について英語で20文以上まとめたスピーチ文を準備することができる。 517. 夏休みの予定や自分が行きたい外国について、英文で発表することができる。 518. 将来の夢について、理由も含めて10語程度で発表することができる。	W16. 日本の文化や伝統に関する紹介文を辞書を活用しながら書くことができる。 W17. 夏休みの予定や自分が行きたい外国について、英文でまとめることができる。 W18. 将来の夢について、理由も含めて辞書などを活用しながら10語程度で書くことができる。		L9. 身近なことに関する話や指示をヒントを頼りに理解することができる。 L10. 日本文化や将来の夢について発表の内容を聞き取ることができる。	R11. 身近なものについて書かれた20文程度の英文を読み取ることができる。 R12. 物事や人物について語られた英文を読み、その内容や感情、考えや意見をまとめることができる。(日本の文化や伝統に関する紹介文、なりたい職業の将来の夢など)	
中学第1学年	513. 初歩的な英語を聞いて、ヒントを得ながら自己紹介をすることができる。 514. 簡単な英語や単語を使って話せることができる。 515. 簡単な英語で話せるようになったら、自分の思いについて紹介を80語程度で話せることができる。	W13. 学習目標となる初歩的な英文を見ながら正しく書くことができる。 W14. アルファベットの文字をお互いに書けることができる。 W15. 習得していることや学校生活について、例文を参考にしながら書くことができる。		L7. 自己紹介などの初歩的な英語を聞いてヒントを得ながらその内容をお互いに理解することができる。 L8. 10文程度からなる簡単な英語を聞いて、ヒントを得ながらその内容をお互いに理解することができる。	R9. 10文程度からなる初歩的な英文を一文一文に正確に読むことができる。(自己紹介や学校の身の回りに関する内容など) R10. 簡単な英文を読み、その文にはあるイラストを添えて、文のよさを確認して読むことができる。	
小学第6学年	511. 簡単な内容について、アイコンタクトやリアクション、ジェスチャーなどを使って発表することができる。 512. 初歩的な英語で使われる表現についてヒントを得ながら話し発表することができる。 (自己紹介、世界の国々、友達紹介など)	W10. アルファベットの大文字を書くことができる。 W11. 簡単な単語の読みを補助して、アルファベットの小文字を書くことができる。 W12. 文章程度の単語をアルファベットのつりえを聞いて、お互いお互い書けることができる。		L6. 1. 2文の初歩的な英語をイラストやジェスチャーなどによって理解することができる。その後のフレーズを聞き取ることができる。 L7. 3文程度からなる初歩的な英語(1. 2文)をイラストやジェスチャーなどによって理解することができる。その後のフレーズをお互いに理解することができる。(自己紹介、世界の国々、友達紹介など)	R7. 初歩的な英語をイラストとつりえを補助して読み取ることができる。(自己紹介や学校の身の回りに関する内容など) R8. 簡単な内容の絵本を読み、英語特有の表現に注目して、文のよさを確認して読むことができる。	
小学第5学年	509. 初歩的な英語について、アイコンタクトやリアクション、ジェスチャーなどを使って発表することができる。 510. 初歩的な英語で使われる表現についてヒントを得ながら話し発表することができる。 (自己紹介、世界の国々、友達紹介など)	W7. アルファベットの大文字を書くことができる。 W8. アルファベットの小文字を書くことができる。 W9. 文章程度の単語をアルファベットのつりえを聞いて、お互いお互い書けることができる。		L5. 3文程度からなる初歩的な英語(1. 2文)をイラストやジェスチャーなどによって理解することができる。その後のフレーズをお互いに理解することができる。(自己紹介、世界の国々、友達紹介など)	R6. 初歩的な英語に用いられる単語をイラストとつりえを補助して読み取ることができる。(自己紹介や学校の身の回りに関する内容など) R7. 簡単な内容の絵本を読み、英語特有の表現に注目して、文のよさを確認して読むことができる。	
小学第4学年	508. 初歩的な英語で使われる単語についてヒントを得ながら、お互いに話し発表することができる。(自己紹介、相手の国や名前、道案内、人物紹介など) 509. 簡単な単語やフレーズや表現を用いてアイコンタクトやリアクション、ジェスチャーなどの工夫がわり、楽しく話し発表することができる。 510. 単語のアクセントに気を付けながら、相手に伝えるように発表することができる。	W4. アルファベットの大文字をお互いお互い書けることができる。 W5. アルファベットの小文字についてヒントを得ながらその一部を書くことができる。		L4. 初歩的な英語の定型文や単語をイラストやジェスチャーなどによって理解することができる。その後のフレーズをお互いに理解することができる。(自己紹介、相手の国や名前、道案内、人物紹介など)	R4. 初歩的な英語をイラストとつりえを補助して読み取ることができる。(自己紹介や学校の身の回りに関する内容など) R5. アルファベットの小文字と大文字をお互いお互い読むことができる。	
小学第3学年	507. 初歩的な英語で使われる単語についてヒントを得ながら、お互いに話し発表することができる。(自己紹介、相手の国や名前、道案内、人物紹介など) 508. 簡単な単語やフレーズや表現を用いてアイコンタクトやリアクション、ジェスチャーなどの工夫がわり、楽しく話し発表することができる。 509. 単語のアクセントに気を付けながら、ヒントを得ながら発表することができる。	W3. アルファベットの大文字をヒントを得ながら書くことができる。 W4. アルファベットの小文字について見本を見ながらお互いお互い書けることができる。		L3. 初歩的な英語の定型文や単語をイラストやジェスチャーなどによって理解することができる。その後のフレーズをお互いに理解することができる。(自己紹介、相手の国や名前、道案内、人物紹介など)	R3. アルファベットの小文字をヒントを得ながら読むことができる。	
小学第2学年	502. 4-5語程度からなる文についてヒントを得ながら、お互いに話し発表することができる。(Hello English, 学校規模に合う、どんなもの、どんな手、できる?など)	W1. アルファベットの大文字を見本を見ながらお互いお互い書けることができる。		L2. 4-5語程度からなる簡単な文について、ヒントを得ながらその内容の一部を理解することができる。(Hello English, 学校規模に合う、どんなもの、どんな手、できる?などの様々な話題について)	R2. アルファベットの小文字をヒントを得ながら読むことができる。	
小学第1学年	501. 名前や数字を中心とした基礎的な単語をイラストやジェスチャーなどによって理解することができる。			L1. 名前や数字を中心とした基礎的な単語をイラストやジェスチャーなどによって理解することができる。	R1. アルファベットの大文字をヒントを得ながら読むことができる。	
5才児	500. 先生の発表をまねることができる。			L0. 英語の発音の練習をまねることができる。		

【上表：新設教科と他教科との関連表】

新地球学、地球コミュニケーションと生活科との関連			
2学年	生活科	新地球学	地球コミュニケーション
	わくわくするね 2年生		1. 自己紹介
	めざせ 野さし作り人		2. 天気・気候
	まちが大好き たんけんたい	1. 鹿沼自然ランドを探検しよう	3. 身近なもの(簡単な名前)
		2.	4. 乗り物
		3.	5. 形音調+乗り物
		4.	6. 形音調+名前
		5.	
		6.	
		7.	
		8.	
		9.	
	めざせ 生きものほかせ	10. ストーリープレインの身近な自然を知ろう	7. 形状や状態を表す形容詞
	えがのひみつ たんけんたい	11.	8. 教室の名前
		12.	9. カナダ訪問団との交流
		13.	10. カナダ訪問団との交流
		14.	
		15. 探検のまとめしよう!	
		16.	
		17.	
		18.	
		19.	
		20.	
		21.	
		22.	
		23.	
		24. 防災について知ろう!	
		25.	
		26.	
	作って ためして		11. ハロウィン
			12. クリスマス
	あしたへ ダッシュ		13. スポーツ
			14. I can play~
			15. I can't play~?
			16. Can you play~?
			17. 本場小2交流

新地球学 評価規準						
校種	4つの柱(低学年は2つ)	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能(計画力、情報活用力等)・行動	気付きや知識・理解	
		行動するための心	行動するための力	行動するための技能・実際の行動	行動するための気付きや知識・理解	
小学校	低	地域の自然と環境・防災	・身近な自然や人に関心をもち、すすんでかかわろうとする。 ・安全に気をつけて、体験学習や日常の生活しようとする。	・身近な自然や環境への気づきや思いを素直に表現する。 ・身近な大人の指示に従い、体験学習や災害時に適切な判断をしている。		・自分たちの身近な自然の豊かさやよさに気づいている。 ・自然体験や災害時にとるべく安全な行動について理解している。
		国際理解	外国(姉妹都市など)の身近な自然について、すすんで知ろうとする。	外国(姉妹都市など)の自然について知り、自分たちがらす地域の自然と比べながら学習している。		鹿追町と外国(姉妹都市など)の自然の特徴について知っている。
	中	地域の自然と環境・防災	・鹿追の自然について、すすんで自分とのかかわりについて考えようとする。 ・体験学習や災害時に自ら安全な行動をしようとする。	・学習したことをもとに、鹿追町の地域や自然のよさについて考えたり、相手に伝えたりしている。 ・鹿追町で起きた過去の自然災害について調べたことをもとに、災害時どのような行動をとればよいか考えている。	・然別湖周辺の自然体験活動の計画を立て、観察や調査を行い、調べたことを記録したり新聞にまとめたりしている。 ・鹿追町で起きた過去の自然災害について、図書やインタビューなどを用いて調べている。	・風化や永久凍土など然別湖周辺の自然の特徴や、そこにくらす生物や生態系について理解している。 ・自然体験や災害時にとるべく安全な行動について理解している。
		国際理解	外国(姉妹都市など)の街づくりについて、鹿追町と比較しながら、すすんで考えようとする。	調べたことなどをもとに、鹿追町のゴミ処理やリサイクルと比較し、よさや課題について考えたり、自分でできることを見つけていたりしている。	外国(姉妹都市など)のゴミ処理やリサイクルについて調べた計画を立て、インターネットや図書、ALTへのインタビューなどを活用して調べている。	外国(姉妹都市など)の様子や、ゴミ処理、リサイクルの様子などについて知っている。
		エネルギー	鹿追町のゴミ処理やリサイクルに関心をもち、自分たちの生活と自然とのかかわりについて、すすんで考えようとする。	調べたことなどをもとに、鹿追町のゴミ処理やリサイクルと比較し、よさや課題について考えたり、自分でできることを見つけていたりしている。	鹿追町のゴミ処理やリサイクルについて学習の計画を立て、調べたことを記録したり、自分の考えなどをまとめて発表したりしている。	鹿追町のゴミ処理・リサイクルのしくみについて理解している。また、そのような自分たちの生活と自然とのかかわりに気づいている。
		地域の文化	鹿追町の産業や文化に関心をもち、人々の営みと自然とのかかわりについて考えたりしようとする。	調べたことなどをもとに、鹿追町のよさや特徴などについて自分の考えをもち、それを相手に伝えたり、自分でできることを見つけていたりしている。	鹿追町の街づくりや特産品などについて調べた計画を立て、見学や体験を行い、学習したことを記録したりまとめたりしている。	鹿追町にくらす人々の生活を知らるとともに、鹿追町の代表的産業が自然と深く関係していることを理解している。
	高	地域の自然と環境・防災	・鹿追の自然の成り立ちやすばらしさについて知るとともに、環境や防災についての現状について、すすんで考えようとする。 ・日常生活で発生する災害について安全に行動しようとするとともに、他者の安全にも気配りしようとする。	・学習したことをもとに、自然とのかかわりや自分たちのくらしのありかたについて考えたり、鹿追町の自然を保全するために自分ができるとことを実行したりしている。 ・調べたことなどをもとに、自然と共生した街づくりについて考えたり、災害時に適切で安全な行動をとるようになればよいかを他者とのかかわりも含めて話し合ったりしている。	・然別湖の自然の成り立ちや固有の生態系等について調べるための計画を立て、見学や体験などを行い、調べたことを記録したり、新聞にまとめたりしている。 ・鹿追の防災の取組について調べた計画を立て、見学やインタビューなどを通して、調べたことを記録したり、自分の考えをまとめていたりしている。 ・自然と調和した生活を描くとともに、環境や防災について日常生活でできることを正しく発信している。(該当学年全体へ、全校へ)	・然別火山群や然別湖の成り立ちなど、鹿追の自然の特徴や固有の生態系などについて理解している。 ・鹿追町の災害の歴史と防災の取組について知り、適切で安全に行動するための手段や他者との連携のしかたについて理解している。
		国際理解	外国(姉妹都市など)と鹿追町を比較し、自然と人々とのかかわりについて、すすんで調べたり考えたりしようとする。	鹿追町と外国(姉妹都市など)のグリーンツーリズム(自然観光、交流等)の取組を比較し、それぞれのよさや課題について考えたり、自分たちが自然とよりよくかかわる方法を選択したりしている。	外国(姉妹都市など)について調べた計画を立て、インターネットや図書、ALTへのインタビューなどを活用して調べたり、様々な方法により表現している。 ・住みやすい社会を描き、工夫したことを発信している。(該当学年全体へ、全校へ)	外国(姉妹都市など)の国立公園での取組やグリーンツーリズム(自然観光、交流等)の取組方法について知っている。
		エネルギー	持続可能な地域社会を構築するための鹿追町独自の取組について知り、すすんで学習したり、相手に伝えたりしようとする。	調べたことなどをもとに、鹿追町の環境保全のための取組のよさや課題について考えたり、これからの社会やエネルギーについて自分ができるとことを見つけていたり、工夫したりしている。	・鹿追町のバイオマス活用例について調べた計画を立て、見学やインタビューなどを通して、調べたことをまとめたり、ネットなどで情報を発信したりしている。 ・資源の消費が少い生活様式を考え、取り組めることを考え実践している。(該当学年全体へ、全校へ)	鹿追町の環境保全センターの役割や再生可能エネルギーについて知り、持続可能な地域社会を構築するための鹿追町の取組について理解している。
		地域の文化	鹿追町の産業や文化に関心をもち、人々の営みと自然とのかかわりについて考えたり、相手に伝えたりしようとする。	体験や見学したことなどをもとに、鹿追町のよさや特徴などについて自分の考えをもち、それを相手に伝えたり、それをもとに街づくりの工夫を考えたりしている。	ジオパーク構想について調べた計画を立て、体験や見学などを通して、調べたことをまとめたり、プレゼンテーションしたりしている。 ・産業や文化、観光を継承し発展させる活動を工夫し、実践している。(該当学年全体へ、全校へ)	鹿追ジオパーク構想について知り、鹿追町の産業や観光などの特徴について理解している。
	中学校	4つの柱	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能(計画力、情報活用力等)・行動	気付きや知識・理解
			行動するための心	行動するための力	行動するための技能・実際の行動	行動するための気付きや知識・理解
中学校	地域の自然と環境・防災	・鹿追の自然・環境・防災について、その役割や課題、保全の意義、バランスのとれた町づくりという視点から進んで追究しようとする。 ・体験学習(や災害)時に自ら安全な行動をしようとする。	・学習したことをもとに、鹿追町の環境保全と豊かな暮らしの関係について多角的・多面的に考え判断したり、追究したことを素直に表現し伝えたりしている。 ・鹿追町の防災について科学的に追究したり、カナダや諸外国の取組から学習行動等について考え判断し活かす方法を見つけていたりしている。	・鹿追町の川、土、森林等の自然環境保全の仕組みについて調べた計画を立て、追究し、様々な資料から有用な情報を適切に読み取り図表に記録したりまとめたりしている。 ・鹿追町の過去の自然災害について追究したとことや災害への備えを適切にまとめたり、的確な避難行動等、自分たちの町に活かす方法を地域に具体的に提案している。	・鹿追町の自然・環境・防災について、その現状や環境保全と豊かな暮らしの関係について理解している。 ・学校、地域の防災や災害時のボランティア活動の大切さについて理解している。	
	国際理解	カナダをはじめ、諸外国の自然環境やエネルギー、歴史や文化についての取組を調査し、鹿追町と比較しながら、課題についてすすんで考えようとする。	国際的視野に立って課題解決的に追究し、対処法や解決法について考えたり、鹿追の町づくりの視点から、自分たちにできることを見つけていたりしている。	カナダや諸外国の歴史や文化、環境にかかわる取組について調べた計画を立て、様々な情報手段を活用し有用な情報を適切にまとめたり、自分たちにできる対処法を提案している。	カナダや諸外国の歴史や文化、環境やエネルギーを取り巻く課題、持続可能な人間生活の在り方などについて理解している。	
	エネルギー	鹿追町の自然エネルギーの利用に関心を高め、意欲的に追究し、持続可能な町づくりという視点から、自分たちにできることを考えようとする。	鹿追町の新たなエネルギービジョンについて多角的・多面的に追究したことをもとに、将来のエネルギーの在り方について構築したり、地球環境問題の視点から自分たちにできることを考えたりしている。	鹿追町の町づくりと地球環境問題の視点から、私たちにできることを計画立てて具体化し工夫をまとめたり、実践したりしている。	新たなエネルギービジョンに関連した町づくりの視点からエネルギーの未来像について理解している。	
	地域の文化	鹿追町の歴史や文化に関心をもち、意欲的に追究し、町の未来像について、進んで考えようとする。	地域の歴史や文化、行政の取組などについて追究したことをもとに、未来像について考察し、自分の考えを適切に表現したりしている。	鹿追町の町づくりの一環として地域文化の未来像について適切にまとめたり、まとめたものを地域に発信したりしている。	鹿追町の町づくりの一環として地域の文化や行政の取組などについての未来像を理解できる。	
高等学校	4つの柱	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能(計画力、情報活用力等)・行動	気付きや知識・理解	
		行動するための心	行動するための力	行動するための技能・実際の行動	行動するための気付きや知識・理解	
高等学校	地域の自然と環境・防災	・国立公園を擁する町としての鹿追町について、自然・環境・防災と人間との関わりについて、進んで探究しようとする。 ・体験学習(や災害)時に、自らの役割を自覚し、地域の防災活動や災害時のボランティア活動の大切さについて、進んで学ぼうとする。	・これまでに学習したことをもとに、地球規模の自然災害や環境問題について、地球市民として多面的に考察し、公正に判断したり、探究したことをもとに、 <u>並外域の人々を巻き込み</u> 、より高い合意形成を図っている。 ・これまでに学習したことをもとに、地域の防災活動や災害時のボランティア活動への参加の仕方について、 <u>討論を行う</u> などして、自分たちの役割について探究している。	・これまでに学習したことをもとに、地球規模の自然災害や環境問題について、地球市民として多面的に考察し、 <u>並外域の人々を巻き込み</u> 、より高い合意形成を図っている。 ・これまでに学習したことをもとに、災害避難場所としての在り方について、 <u>仮の避難所をもとに体験</u> している。(シミュレーション)	・環境保全と豊かな暮らしの関係を地球規模でとらえ理解している。 ・地域の防災活動や災害時の役割について理解している。	
	国際理解	カナダをはじめ、諸外国の自然環境やエネルギーについての取組を分析し、より望ましい環境保全の在り方についてすすんで考えようとする。	これまでに学習したことをもとに、環境問題や各国のエネルギーの取組について、 <u>来日した留学生とディスカッションし、望ましい在り方について考察し、合意形成を図っている。</u>	町の環境に関わる情報を伝えるために、 <u>わかりやすい地域のガイドマップを工夫して作成し、広く世界に発信している。</u>	各国の自然環境やエネルギーについて、地球規模でとらえ、望ましい環境保全の在り方について理解している。	
	エネルギー	新エネルギービジョンとの関連から、環境に負荷をかけない持続可能な人間生活の在り方について、 <u>意識の内容を工夫</u> しようとする。	これまでに学習したことをもとに、再生可能エネルギーの可能性を活かした将来のエネルギーの在り方について諸外国の人とディスカッションし、 <u>適切な展望を提案</u> している。	エネルギー問題についての対策を考察し、 <u>広く世界へ発信するために、必要な情報を適切に活用しながら、英語でプレゼンテーション</u> している。	新エネルギービジョンに関連した町づくりの視点から、環境に負荷をかけた生活や将来のエネルギーの在り方について理解している。	
	地域の文化	将来の地域の担い手として、地域の様々な文化について更に発展させるための工夫をしようとする。	これまでに学習したことをもとに、地域文化の発展のために自分たちが、 <u>様々な人々と話し合いながら、自分の考えを深め</u> ている。	・カナダ短期留学時に、日本の文化を紹介するために、 <u>四苦八楽法を工夫して</u> いる。また現地で、 <u>取組を企画し、英語で説明</u> している。 ・ジオパークで、 <u>わかりやすく説明</u> できるように計画を立てたり、 <u>実際にガイドとして役立つような体験</u> を行っている。	地域の文化の価値を自覚し、その継承や発展のための考えや具体策について理解している。	

(3) 授業時間等についての工夫

<小学校>

第1学年生活科 54 時間、第2学年生活科 55 時間を減じて、総授業時数を増やして地球コミュニケーション 34 時間（第1学年）、35 時間（第2学年）と新地球学 32 時間（第1・2学年）を実施したことから、余剰時数を生活科にあてたりするなどの調整を行った。

第3・4学年において、総合的な学習の時間 70 時間を減じて、地球コミュニケーション 35 時間、新地球学 35 時間を実施した。

第5・6学年において、外国語活動 35 時間を減じて、地球コミュニケーション 35 時間を実施したことから、外国語活動の内容が組み込まれるように調整した。また、総合的な学習の時間の 35 時間を減じて、新地球学を実施した。

<中学校>

全学年において、社会科、理科から各5時間、総合的な学習の時間から25時間減じて、新地球学を実施したことから、学び漏れがないように「新地球学」に理科や社会科の学習内容を組み込んだ。また英語 35 時間減じて、地球コミュニケーションを実施し、英語の内容に学び漏れがないように「地球コミュニケーション」の内容に組み込んだ。

<高等学校>

地球コミュニケーション」を年間70時間実施するとともに、「新地球学」を総合的な学習の時間において35時間実施した。

2 指導方法・教材等

(1) 実施した指導方法等の特徴

① 地球コミュニケーション

<5歳児～小学校第4学年>

ア ALT や JTE、音声教材を用いて正しい英語をできるだけ多くの時間、繰り返し触れさせる。

イ 体を動かし、リズムをとり、まねる活動を多く取り入れる。

ウ 実物や絵カードなどを活用して具体物から五感を働かせる活動を多く取り入れる。

エ アルファベットやフォニックスを用いて文字に慣れ親しむことを行う。

オ 簡単な会話ができるよう具体的な場面（live situation）をイメージできるよう工夫する。

<小学第5学年～中学校第2学年>

ア 他教科等との関連から児童生徒が話したくなる話題を設定し、進んでコミュニケーションを図る場面を設定する。

イ コミュニケーションの場面を「特有の表現がよく使われる場面」と「児童生徒の身近な暮らしにかかわる場面」の二つに分けて設定する。また、コミュニケーションの働きを「相手との関係を円滑にする」、「気持ちを伝える」「事実を伝える」、「考えや意図を伝える」及び「相手の行動を促す」に分けて、かかわる力を身に付けさせる。

ウ 「楽しい」から「知的な興味・関心」へつながるような内容を設定する。

<中学校第3学年～高等学校第3学年>

ア 言語活動において、実際のコミュニケーション場面を想起させるよう配慮し、必要性を感じさせながら、互いの考えや気持ちを伝え合う活動を行う。

イ 取り上げる題材については英語だけではなく、他の言語を使用する人々についても理解を深めるとともに、日本人に対しても理解を深める。

ウ 短期留学等から世界や日本の生活・文化について理解を深め、これらを尊重する態度

を養う。

エ スピーチ、ディスカッションにおいて、北海道とカナダの先住民の自然との共生について学び、人間と自然のより望ましい共生のあり方を考えるようにする。

オ カナダ短期留学における実地取材を行うことで、鹿追とカナダの環境に対する考え方の比較を行い、より望ましい環境保全のあり方を考え、提言する。

② 新地球学

<5歳児～小学校第4学年>

ア 「学校周辺の自然」については、学校周辺の散策から豊かな自然を体験させる。(例：野草の採取、自然調査(凍土測定)など)

イ 「地域の自然」については、鹿追ネイチャーセンターやジオパーク、大雪山国立公園を利用した活動(白雲山登山・千畳くずれ付近のナキウサギ見学・スノーシューによる森の散策)など地域の教育資源を活用する。

ウ 「環境保全」については、循環型生活環境づくりに基づき、家畜の排せつ物や生ゴミをエネルギーに変える施設等を見学し、体験したことを伝える。

<小学校第5学年～中学校第2学年>

ア 「地域の自然」については、地域の探索から豊かな自然を体験し、自分たちの住んでいる地域のよさを理解させる。(例：農産物を利用した食に関する指導、カヌー体験、リバーウォッチング、イグルーづくりなど)

イ 「地域の自然」については、鹿追ネイチャーセンターやジオパーク等の外部講師を活用して、環境の有限性について理解させ、環境に対する考えをもてるようにする。(水質調査、土壌調査、ウチダザリガニの駆除など)

ウ 「地域のいろいろな人たちとかかわり」については、体験活動を通じて、鹿追町の産業について特色を理解し、発信できるようにする。

エ 「地域のいろいろな人たちとかかわり」については、地域の人々や留学生との交流を通じてグローバルな視点を身に付ける。(例：農業研修する外国人、JICAの人たちとかかわりや北海道の先住民であるアイヌの暮らしについての理解など)

オ 「環境保全」については、バイオマスエネルギーや循環型社会(新エネルギービジョン)について調べ、活用方法などを考え、発信できるようにする。

<中学校第3学年～高等学校第3学年>

ア 再生可能エネルギーの実際と可能性について学び、将来の社会のエネルギーのあり方を考えるようにする。

イ ネイチャーセンターなど地域の人材を活用する。

ウ 地域の自然を見つめなおし、これまでの活動を振り返り、協力しながら問題を解決していく学びを取り入れる。

エ 北海道とカナダの先住民の自然との共生について学び、人間と自然のより望ましい共生のあり方を考えるようにする。

オ カナダ短期留学における実地取材を行うことで、鹿追とカナダの環境に対する考え方の比較を行い、より望ましい環境保全のあり方を考え、提言する。

カ 北海道やカナダの先住民族の自然との共生のあり方にふれ、相違点の理解から人間と自然の関係を考えるようにする。

キ 生物の多様性やバランスによって自分たちの生活や生態系が支えられていることを理解し、バランスを維持する共生のあり方について考え、判断し、行動する力が身に付くようする。

(2) 指導方法等は適切であったか

① 地球コミュニケーション

- ・たくさんの教材を活用していくことで、児童生徒の興味関心を高め意欲的に交流する姿が見られた。
- ・フォニックスはとても大切な指導であり、ALT や JTE の指導により、児童生徒はスムーズにフォニックスの感覚を身に付けている、自分で書こう、読もうとする意識に大きくつながっている。
- ・アルファベットや Magic E などを継続して練習した結果、児童がアルファベット等を身に付けることができ、自信につながった。
- ・英語検定に取り組む児童生徒が増えてきており、一つのよい目標になってきている。
- ・交流授業は学校間の調整が難しいこともあるが、児童生徒のかかわる力とコミュニケーション能力を高める上で有効であった。

② 新地球学

- ・「持続可能な社会を構築するための教育」の視点に立って指導内容の改善を図るため、「課題を見出すための視点や身に付けさせたい力を明確にしながら指導する方法」は適切であった。
- ・地域の教育資源から体験し、課題を見つけ、自分なりの課題解決方法を考えたり、友だちと協力して解決方法を見つけ出したりすることで、人間と自然の望ましい共生のあり方について考えるようになった。
- ・「地域のいろいろな人たちとかかわり」のなかで、体験活動を行うことで、鹿追町の産業について特色を理解し、発信できるようになってきている。

II 実施の効果

1 児童・生徒への効果

児童生徒アンケートを実施（4段階評価） 総数 512 平成 29 年 11 月 16 日～22 日実施

① 地球コミュニケーション

「地球コミュニケーションの授業で積極的に話そうとしたか」という内容の問いに対する回答は右のグラフのような結果となった。

小学校低学年の結果（3.7）と中学校の結果（3.1）が高く、小学校中・高学年の結果（2.9）が低く表れたが、これは、地球コミュニケーションの交流授業が影響しているものと考えられる。

交流授業は、学校間の接続期を中心に計

画しており、5歳児と交流を行っている小学校第1・第2学年、小学校第5・第6学年と交流を行っている中学校第1・第2学年は、交流授業の主体となる場面が多いことから、積極的に取り組む意欲や態度が育ったと考える。

また、教研式学力検査（CRT）の過去10年間（平成19年1月実施～平成29年1月実施分）の結果から中学校2年生の英語の学力の推移を表したものが【表A】である。これによると、全国平均（100）を上回っている項目が多く、特に小領域3「まとまりのある英語を聞き取る」、4「強勢や区切りに注意して話す」、5「考えや気持ちを正しく伝える」が安定して全国平均を上回っていること、領域12「適切な表現を用いて書く」が著しく伸びていくことが本町生徒の英語の学力の特徴として明らかになっている。

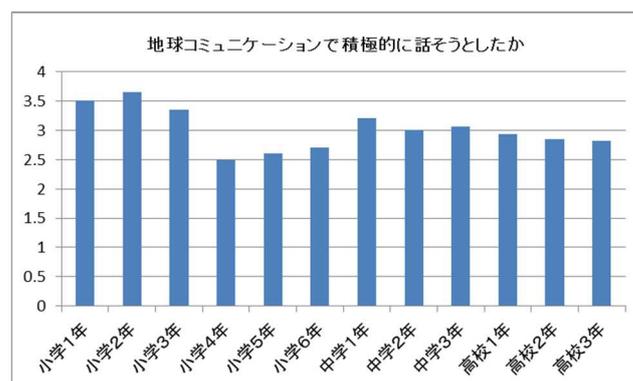
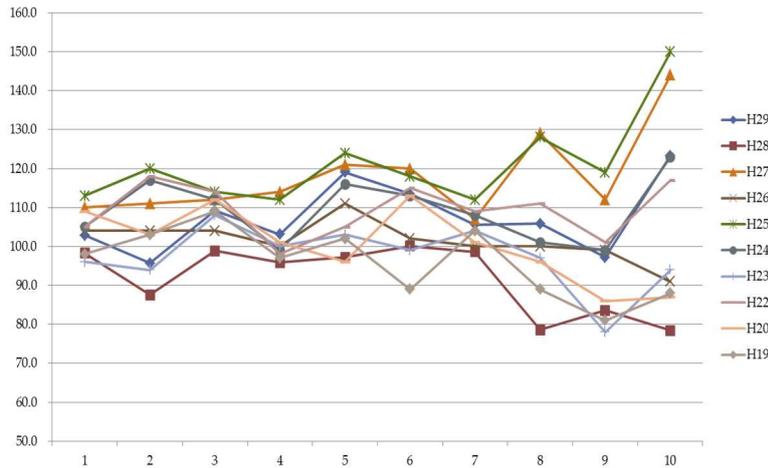


表 A 【中学校第2学年英語 CRT 学力検査 10年間の推移】

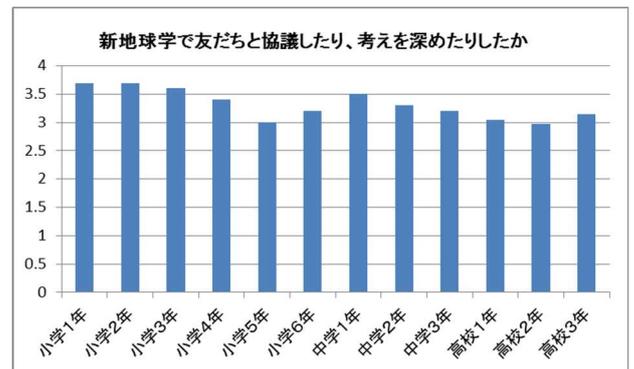


【中学校2年英語の小領域】

1	語や文を正確に聞き取る
2	質問や依頼に適切に応じる
3	まとまりのある英語を聞き取る
4	強勢や区切りに注意して話す
5	考えや気持ちを正しく伝える
6	英文を正しく伝える
7	長文の大切な部分を読み取る
8	内容を捉え賛否やその理由を示す
9	基本的な単語や英文を書く
10	適切な表現を用いて書く

② 新地球学

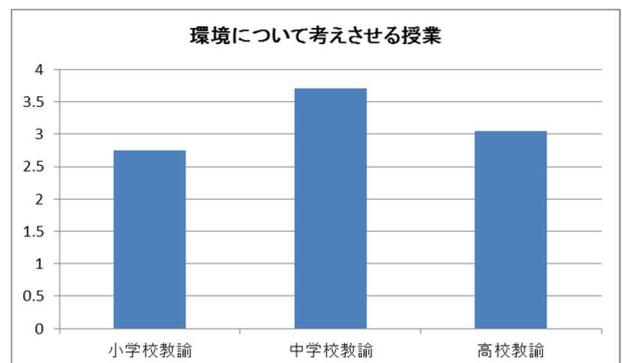
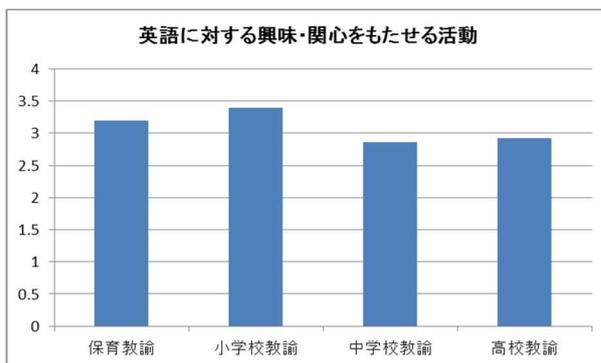
「新地球学の授業で友だちと協議したり、考えを深めたりしましたか」という問いに対する回答は右のグラフのようになった。鹿追町の児童生徒は、新地球学の授業で課題について友だちと話し合ったり、考えを深めたりすることができていると感じていることがわかった。



2 教師への効果

教師アンケートを実施（4段階評価） 総数 81 平成 29 年 11 月 16 日～22 日実施

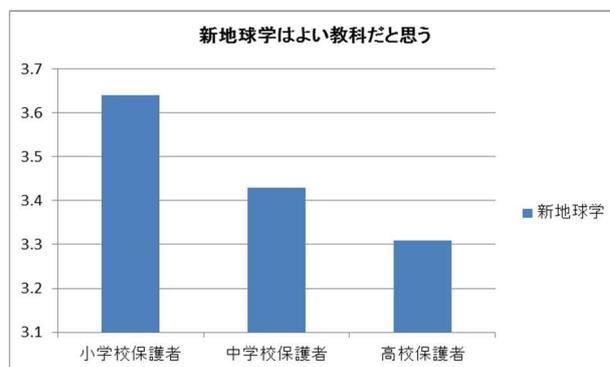
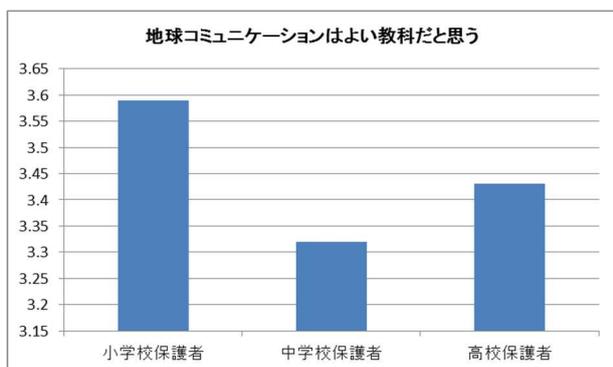
「英語の興味関心をもたせる活動に心掛けているか」という問いに対する回答は左下のグラフのようになった。このことから、小学校において地球コミュニケーションの学びを生かす日常的な取組や活動の工夫が行われていることがわかった。また、「環境について考えさせる授業を行っているか」という問いに対する回答は右下のグラフのようになった。このことから、特に、中学校において「考動力」を意識して授業づくりが進められていることがわかった。



3 保護者等への効果

保護者アンケートを実施（4段階評価） 総数 306 平成 29 年 11 月 16 日～22 日実施

地球コミュニケーションと新地球学の2教科について子どもの様子から考えを尋ねたところ、どの学校種の保護者も平均評定が3.3以上の回答があり、よい印象と継続して欲しいという気持ちがあることがわかった。また、小学校保護者での一貫教育に対する期待が大きいことも明らかとなった。



Ⅲ 研究実施上の問題点と今後の課題

<研究実施上の問題点>

研究開発の取組は、新設教科のカリキュラムを軸とし、学習環境や幼児児童生徒理解を深めていくことで、幼小中高の滑らかな指導の接続を図ることができた。また、授業力向上や教材開発の面においても大きな成果が見られた。しかしながら、本研究開発が本来の教育課程における各教科等にどのような影響を及ぼしているかについても確認することも大切である。

今後については、本研究開発の成果を広く紹介するとともに、新学習指導要領に研究成果を生かし課題について焦点化していくことで、さらなる充実を図っていきたいと考える。

- ① 研究してきた新設教科に対し、それぞれの目標の達成に向けて取り組んできたが、今後はその先にある主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向けた取組が求められる。
- ② 自立的な人格の形成を目指した21世紀を生き抜くために必要な汎用的な資質・能力がどのように身に付いたか評価し、教科学習の先にある能力を見据えた指導が求められる。
- ③ 「新地球学」においては、持続可能な開発のための教育（ESD）や防災教育について、学習を進めてきたが、さらに積極的に考え地域や社会とかがかわる力（考動力）の向上に向けた授業実践が求められる。
- ④ 小学校第3・4学年の外国語活動、第5・6学年の外国語（英語）に「地球コミュニケーション」のカリキュラムや評価をどのように接続させるか、あるいはどのように活用していくか検討していく必要がある。
- ⑤ 小学校4年生以上に一人一台のタブレット端末を導入したが、他教科も含め「地球コミュニケーション」「新地球学」の学びの中でどのように活用すると、効果的な学びとなるか、研究を重ねていく必要がある。
- ⑥ 作成した教科書については印刷費等で多額なものとなる。今後は、容易に改訂したり、更新したりするため、電子化を検討する必要がある。

<今後の課題>

地球コミュニケーションについては、今後は、新学習指導要領で実施される小学校第5・6学年の外国語（英語）の授業、小学校第3・4学年の外国語活動の授業において、地球コミュニケーションのカリキュラムやCAN-DOリストをどのように活用していくかが課題である。また、5歳児や低学年からの英語教育の有効性が子どもの育ちやアンケート結果から明らかになったことから、どのようなカリキュラム編成が小学校3・4年の外国語活動につなげるのに有効かということも探っていきたい。さらには、高校1年生でのカナダ短期留学において「生きた英語」を生徒が話せるよう、実効性のあるカリキュラムを編成していくことも重要な課題としたい。

しかおい学からスタートした新地球学については、ESDの視点を活かしたカリキュラムとルーブリック評価の一層の充実を図りながら、総合的な学習の時間の中で鹿追町ならではの学びを再編していく必要がある。